2026.09.04

令和８年度全国学力学習状況調査の結果　　京都市立葛野小学校

４月 23 日に、本校６年生 80 名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は国語と算数の２教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

国語・算数共に全国平均を上回りました。国語と算数を比較すると、国語の上回りのほうが大きかったです。国語・算数両調査において、知識・技能を問う問題や、記述式の問題の正答率が高いという結果となりました。低学年からの「書くこと」の積み上げ、日々の学習の中で書くという習慣が身についてきている結果だと言えるのではないでしょうか。また、無回答の割合もかなり少ないという実態から粘り強く学習に取り組めている成果ではないかと考えています。

国語科より

全体的によくできています。特に、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめたり、文章や話の中心が明確になるように文章の構成を考えたりする設問の正答率が高かったです。一方で、自分の考えが伝わるように資料を活用しながら書いたり、表現を工夫したりする設問については全国平均を下回っています。

根拠を明確にしながら、話を展開したり、文章構成を考えたりする力を国語科だけでなく、様々な教科で培っていかなければならないと感じています。

算数科より

全国平均を上回っていますが、設問によっては、全国平均を大きく下回る問いもありました。体積の意味について問う問題、およその数にする四捨五入の問題、単位量あたりの大きさを求めて、込み具合を比べる問題、割合の問題です。特に、割合の問題においては、もとになっている量を１として捉え、くらべる量がもとになっている量の何倍かという考え方が定着していないことが分かります。これは、昨年度とも同じ傾向であります。線分図や数直線図を用いて説明したり、友達との対話を通して考えを広めたり、深めたりする授業を工夫していく必要があると感じています。

児童質問紙調査から①

１　していた　　２　どちらかといえばしていた　３　どちらかといえばしていなかった
４　していなかった　　５　機会がなかった　　その他

質問番号	質問事項											
（３８）	５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか											
選択肢	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０	その他	無回答
貴校	26.0	28.6	28.6	14.3	1.3						0.0	1.3
京都府（公立）	25.1	39.5	24.0	9.2	1.9						0.0	0.4
全国（公立）	25.8	40.6	23.4	8.0	1.7						0.0	0.5

自分の考えがうまく伝わるように資料を見せたり、話の組み立てを考えたりして発表をした経験が少ないと回答している児童が多かったです。さらなる授業改善が必要だと感じています。

児童質問紙調査から②

１　当てはまる　　２　どちらかといえば当てはまる　３　どちらかといえば当てはまらない
４　当てはまらない　　その他　　無回答

質問番号	質問事項											
（１１）	人が困っているときは、進んで助けていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	その他	無回答
貴校	50.6	44.2	2.6	1.3							0.0	1.3
京都府（公立）	45.8	46.6	5.7	0.7							0.0	1.2
全国（公立）	47.3	45.4	5.6	0.9							0.0	0.8

本校は全国、京都府と比べるとプラス評価の数値が高かったです。人を大切にし、何でも一生けん命がんばる子という学校教育目標を掲げてから２年目となります。人とのつながりをもち、人を大切にしようとする意識が子どもたちの中で育ってきている結果ではないかと考えています。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「人を大切にし、何でも一生けん命がんばる子」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組をすすめています。「人を大切に」に関しては、人間関係の多様性を認め、人と人がつながりをもてるようにすること。「一生けん命」に関しては、自分の目標を自分で決め、進んで学ぼうとすること。「がんばる」は、将来の展望をもって、自尊感情を高め、自己実現を可能にすることを目標としています。

学習したことを見直し、次の学習につなげることや、分からないことや詳しく調べたいことについて、自らの学び方を考え、工夫する点については本校の児童の回答は高い結果となりました。確かな学力のためには、自ら学習計画を立てたり、見通しをもって行動したりという学習習慣がとても大切です。本校の児童はその基盤ができていると感じています。学力向上のためにはこの習慣が大きなポイントであります。また、全体を通して無回答率も大変低かったです。学習に対して粘り強く取り組めている結果だと言えます。「人が困っているときに進んで助けている」や、「人の役に立つ人間になりたい」という数値も高かったです。培われてきた力をさらに伸ばせるように日々の授業改善をしていきたいと思います。

一方で、将来の夢や目標をもつこと、国語や算数といった学習が将来の役に立つと考えている児童の割合が全国に比べて低いということも分かりました。学校での勉強や家庭学習はしっかりとしているが、将来的な展望をもって学習している児童が少ないと言えます。将来の夢をもち、学習する意味や価値を見出せるように働きかけていくことも必要だと感じています。授業だけでなく、様々な学校行事や教育活動でも子どもたちが目的意識をもって取り組むことができるようにしていきたいと思います。これからも、主体的・対話的で深い学びの充実をはかり、将来の展望をもちながら自ら学ぶ力を高めていきたいと思います。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。